

くのはら おんだ
久野原の御田が奉納されます

久野原の御田は、和歌山県の無形民俗文化財に指定されている伝統芸能です。本年2月11日（火・祝）に、久野原区の岩倉神社境内において奉納されます。

久野原区には、縄文時代後期（約4000年前）の遺跡が存在するなど古くから人々が暮らしてきましたが、江戸時代に大規模な用水路が整備されるまで長らく水不足に悩まされてきた地域でした。久野原の御田は、このような状況の中で稲作の生産過程を模倣的に演じることによって、その年の豊作を神仏に祈願するために行われてきたものです。その歴史は、室町時代にさかのぼると考えられています。

全国に伝承されている御田行事の大半は、田植えの所作までですが、久野原の御田は田起こしから、稲刈り、もみぞな 籾供えまでの全生産工程をしゅうと 舅がしむ 躰に教えるもので、このような例は全国的にも珍しく、大変貴重なものと評価されています。御田に先立ち行われるお渡りは、のほり 轆を先頭に役者や関係者が整列し、うた 謡いはやし 囃子を歌いながら岩倉神社の馬場道をゆつくりと歩きます。御田は、岩倉神社境

内の舞台で行われ、舅方・躰方に分かれた座謡ざうたいによる歌や掛け合いに応じて、役者が無言で演技を行います。その中でも子どもたちが演じる早乙女役は、御田終盤の苗取り・田植え・稲刈りなど主要な農作業の場面に登場し、その愛くるしい動作によって場は華やいだ雰囲気になります。

現在、全国的にも過疎化によって伝統芸能の保存や継承が困難な時代を迎える中、保存会を中心とした久野原区民の皆さまによる並々ならぬ努力によって、数百年以上にもわたる伝統が継承されています。新型コロナウイルス感染症の影響などもあり、ここ数年は行事の一部のみ実施されてきましたが、本年は平成31年（2019年）以来6年ぶりに全ての演目が奉納されます。

現在、保存会関係者を中心に本番に向けた練習や準備が行われています。ぜひとも2月11日（火・祝）には多くの皆さまに現地を訪れていただき、この歴史ある伝統芸能をご観覧いただければと思います。

● 久野原の御田

- ・ 奉納日時／2月11日（火・祝）（お渡り12時～30分、御田13時～）
- ・ 奉納場所／岩倉神社（久野原小学校北隣）



久野原の御田（平成31年（2019年）奉納）